

600字物語002

ラブラブ

ハッピー

作者：エリー

今日も一日が終わるね。

わたしはゲーム、あなたは晩酌。一日の中で寝る前のこの時間が一番落ち着くね。

そういえば前から疑問に思っていたんだけど、わたしが操作するゲーム画面を見ていて酔わないの？

テレビじゃなくてわたしを見ている！？

どおりで振り返るたびに目が合うと思った。

じーっと見られていると思うと緊張するなあ。恥ずかしい。でもあなたにとってわたしは特別なのだって嬉しく思うよ。

え？ もちろんわたしにとってあなたは特別。大好きよ。

ん、ゲームの日課は終わった。あなたもお酒を飲み終わりそうね。これからどうする？

寝るには早いけど、何かする元気はないしなあ。

そうだ。今度はわたしがあなたを見る。

なんか、細かいしわが増えたね。目じりとかさ、笑いじわ？

ううん、全然嫌じゃない。むしろ人間なのだからって安心する。美しすぎて怖いくらいなんだもん。

あ、えっと、ほっぺにチュウしていい？

それからムギユってしたい。

あとね、膝枕して！

あったかいね。弾力があって、もちもちしていて、すごく気持ちいい。うふふ。

ずっとこうしていたいね。

うん、幸せだよ。